

平成30年第4回(12月)山陽小野田市議会定例会

請 願 文 書 表

受 理 番 号	受 理 年 月 日	件 名	請願の主旨	請願者の住所及び氏名	紹介議員 の氏名	付託委員会
第3号	平成30年 10月24日	埴生複合施設移設に伴う サイレン継続設置を求め る請願について	別添請願書 写しのとおり	埴生地区自治会協議会会長 林 紀男 埴生地区社会福祉協議会会長 五十嵐 章彦 山口県漁業協同組合埴生支店 運営委員長 大崎 進 埴生地域老人クラブ連合会会長 松岡 邦弘 山陽商工会議所副会頭 豊田 弘光	河崎 平男	総務文教 常任委員会

平成30年10月24日

請 願 書

埴生複合施設移設に伴うサイレン

継続設置を求める請願について

山陽小野田市議会 議長 小野 泰 殿

【申請者】

埴生地区自治会協議会会長

林 紀 男

埴生地区社会福祉協議会会長

五十嵐 章彦

山口県漁業協同組合埴生支店

運営委員長

大 崎 進

埴生地域老人クラブ連合会会長

松 岡 邦 弘

山陽商工会議所副会頭（埴生在住）

豊 田 弘 光

【紹介議員】

河 崎 平 男



平成 30 年 10 月 24 日

山陽小野田市議会 議長 小野 泰 殿

【申 請 者】

埴生地区自治会協議会会長

林 紀 男

埴生地区社会福祉協議会会長

五十嵐 章 彦

山口県漁業協同組合

埴生支店運営委員長

大 崎 進

埴生地域老人クラブ連合会会長

松 岡 邦 弘

山陽商工会議所副会頭

豊 田 弘 光

(埴生在住)

【紹 介 議 員】

河 崎 平 男

埴生複合施設移設に伴うサイレン継続設置を求める請願について

当埴生自治会協議会は、防災対策の最強手段となる J アラートを、新設される複合施設に設置して戴きたい旨の要望書を、平成 29 年 12 月 25 日付けで市長宛てに提出いたしました。費用対効果の面から、係る要望を断念した経緯があります。

『Jアラート設置』は無くなったものの、現在埴生支所にある既存のサイレン機能を活用することで、災害等緊急時の迅速な対応は十分補えるものと、継続設置に希望を繋いでいた訳です。ところがこの程、『市の方針としては、サイレンを撤去する予定である』との知らせを受け、埴生地区住民は失望の淵に突き落とされた思いであります。

撤去の理由を支所で伺ったところ、時報だけのサイレンは不要という事でした。現在のところ、サイレンは 18 時に 1 度鳴るだけです。1 日 1 回の時報の為だけにサイレンを存続させる必要は無いという事なのでしょう。

しかし、緊急時に近隣住民に即時異常事態を知らせる方法として、Jアラートを持たない地域としてはサイレンが最も適切な手段となります。そのサイレン機能をどうか当地区から取り上げないで戴きたいのです。

危機管理策としては、上記のサイレンの他、テレビ、防災ラジオ、携帯電話、インターネット、Jアラート、街宣車、自治会連絡網等々ありますが、どれにも其々長所、短所があり、万全と言えるものは何一つありません。だからこそ、あらゆる手段を講じて連絡、告知、誘導等を図らなければならないと思います。その中でも、最も即時周知能力が高いのが、現状ではサイレンではないでしょうか。

平成11年に埴生地区は高潮により被害を受けました。幸いにも朝方の台風襲来でしたから、人的被害は免れたものの、これが深夜に起きていたら被害が拡大していたかも知れません。真夜中の連絡はなかなか難航すると思われるので、こんな時こそ必ずやサイレンが危機を知らせる重要な役割を担ってくれるものと期待する次第です。

埴生地区の住民は昔からサイレンに馴染んで生活してきました。以前は、朝6時、正午、夕方6時と、時報としては1日3回。また旧山陽町時代は、山火事〇回、家の火事〇回とサイレンで知らせるなど、住民の日常の一部となっていました。

音がうるさくて寝られないという苦情があったとかで、数年前からは1日1回、18時を知らせるのみになってしまいました。正午のサイレンが鳴らないことを不便に感じている人が未だにたくさんいらっしゃることも事実です。また、夕方6時のサイレンは、外で遊んでいる子供たちの帰宅を促す時報として、なくてはならないものとなっていることは言うまでもありません。

現在利用されているサイレンは、町中地域は勿論のこと、小埴生、中村、津布田地区においても聞こえます(地区の方に確認)ので、危機管理面で十分役立つものと確信しております。

上述の通り、サイレンに馴染んできた埴生地区だからこそ、このサイレン機能を新複合施設に移設していただき、日常生活の時報のみならず、いざという時の通知・警報・勧告等活用していただきたく、埴生地域住民を挙げて請願するものです。

以上